

早稲田大学漕艇部における人間形成 -ライフスキルに着目して-

A Study on Character Building in Waseda University Rowing Club - With a focus on Life skills -

1K10C222-7 杉山 史門
主査 中村好男 先生 副査 川上泰雄 先生

【目的】

「心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、健康の保持増進、体力の向上に資するとともに、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や、とりわけ青少年にとっては、スポーツが人間形成に多大な影響を与えるなど、心身の両面にわたる健全な発達に不可欠なものとなっています。」(2013 文部科学省)とあるように、スポーツを実施することは「人間形成」に繋がる一面も有している。早稲田大学漕艇部は110年以上の伝統があり、競技の特性や日々の合宿所生活によって内外から人間形成における評価を受けていることに着目し、早稲田大学漕艇部の活動背景や実際の取り組みを明らかにし、一般の大学生と比較することにより、早稲田大学漕艇部における活動によって得ることのできる可能性のあるライフスキルを明らかにすることを目的とする。

【方法】

まず、早稲田大学漕艇部の活動の背景を明らかにするために早稲田大学漕艇部の主将、副将、主務を務めた3人に対談方式のインタビューを実施し、現在の早稲田大学の取り組みの実態を明らかにする。

次に、早稲田大学漕艇部部員 男子26人 女子6人 早稲田大学スポーツ科学部の学生 男子17人 女子8人を対象とし、島田ら(2006)が開発した「日常生活におけるライフスキル尺度(大学生版)」を使用し、8下位尺度と各3項目の計24項目で構成されているライフスキルを測定するための質問でアンケート調査を実施し「1 全然当てはまらない」「2 あまり当てはまらない」「3 わりと当てはまる」「4 とても当てはまる」4段階評価のうちに該当する番号を選択する形式をとった。アンケートで得られた結果を点数にして集計し、統計処理ソフトSPSS Statisticsを用いてそれぞれの尺度の得点を早稲田大学漕艇部員と一般の大学生で比較し、分析を行う。なお可逆性を持つ質問は分析時に得点を逆転して計算している。

【結果】

2013年現在早稲田大学漕艇部は「早稲田力＝人間力」という理念のもと練習に取り組んでいる。さらに人間力は、「競技力」「指導力」「社会性」という3つの構成要素があり、3名は寮生活・練習共にどの活動も以上の3つの獲得ができてきている実感を持っていた。

また、早稲田大学漕艇部と一般大学生においてライフスキルの獲得状況に差があるかどうかについて8下位尺度中7尺度で早稲田大学漕艇部員の得点が一般大学生を上回った。t検定を行ったところ、では「情報要約力」に有意差が見られ($t=3.491$, $df=55$, $p<.005$)、8要因を「対人スキル」と「個人スキル」に分類しt検定を行なったところt検定を行ったところ、「個人スキル」に有意差が見られた($t=3.212$, $df=55$, $p<.005$)

【考察】

早稲田大学漕艇部の活動は、各スキルの獲得ができる活動を実施していると考えられることができるが、有意差が見られた「個人スキル」の中の「情報要約力」の獲得は、「PDCAサイクル」を意識して行っている「フィードバック」による反省が関係していると考えられる。自分の感覚を文字にする、論理的に考えることにより日々の練習や日常生活への応用がなされているため「情報要約力」の獲得がなされている可能性がある。

本研究では、「対人スキル」において有意差が見られなかったため早稲田大学漕艇部の活動において人間形成ができることを明言することはできないが、「個人スキル」を獲得の可能性を言及できる。

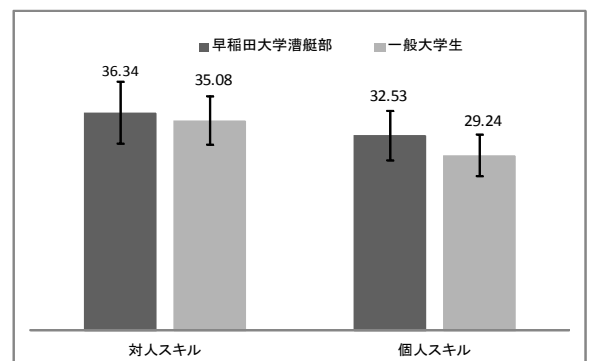


図 2 要因におけるライフスキル獲得状況比較